2026 年度 まちづくりアンケート
（地域団体・NPO 法人対象）
結果概要

Ⅰ　調査の概要

■調査目的

この調査は、町内で活動する地域団体や NPO 法人の皆さんが、普段の活動でどのようなことを感じ、これからのまちづくりに何を重要と考えているのかを把握するために実施しました。

■調査設計

調査対象：町内地域団体、NPO 法人
調査方法：WEB 調査方式
調査期間：令和 8 年 7 月～8 月

■回収結果

発送数：120 件
回答数：57 件
回答率：47.5%

■調査項目

・属性質問	4 項目（活動分野、活動拠点　等）
・活動実態に関する質問	3 項目（活動状況、事業継続意向　等）
・課題に関する質問	1 項目（活動する上での課題）
・まちづくりに関する質問	3 項目（重点課題　等）
・自由記述	1 項目（期待、改善点）

Ⅱ　調査結果

団体の属性

〇主な活動分野

選択肢	回答件数
防犯・防災	17
まちづくり・地域活性化	16
保健・医療・福祉	9
社会教育・子育て支援	7
環境保全	4
その他	2
文化・芸術・スポーツ	2

〇団体の構成人数

選択肢	回答件数
10 人以下	18
51 人以上	15
11～20 人	14
31 人～50 人	5
21～30 人	5

〇活動継続年数

選択肢	回答件数
10～30 年未満	20
5～10 年未満	17
30 年以上	11
5 年未満	9

〇主な活動拠点（地区）

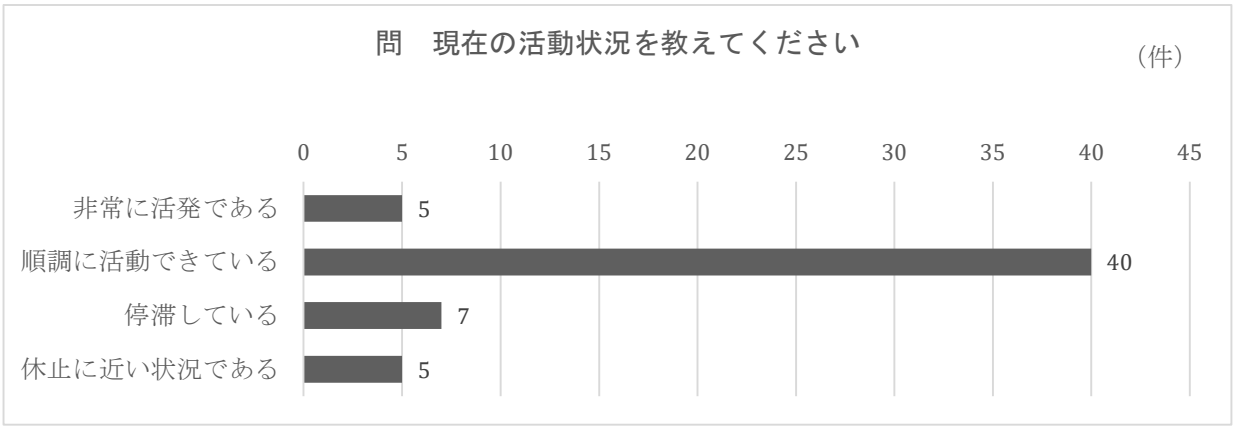
選択肢	回答件数
古館地区	15
志和地区	12
日詰地区	10
赤石地区	10

選択肢	回答件数
彦部地区	5
長岡地区	2
赤沢地区	2
水分地区	1

活動状況

現在の活動状況と今後見通し

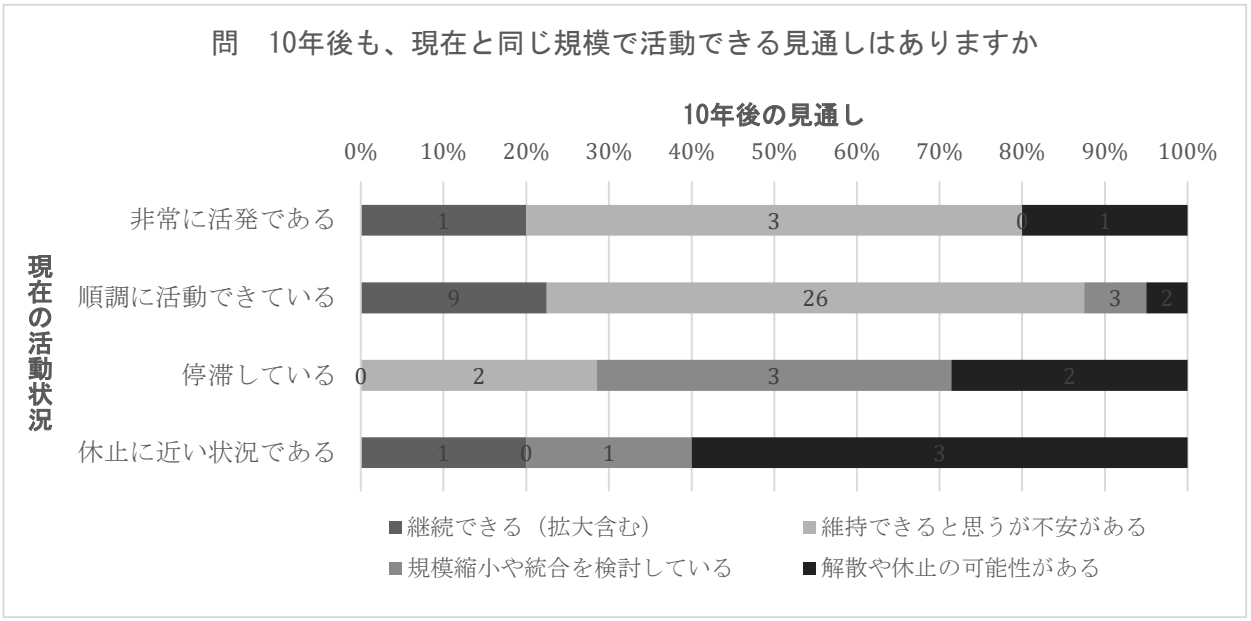
約 8 割の団体が「活発」または「順調」に活動できている。



活動状況別、10 年後の見通し

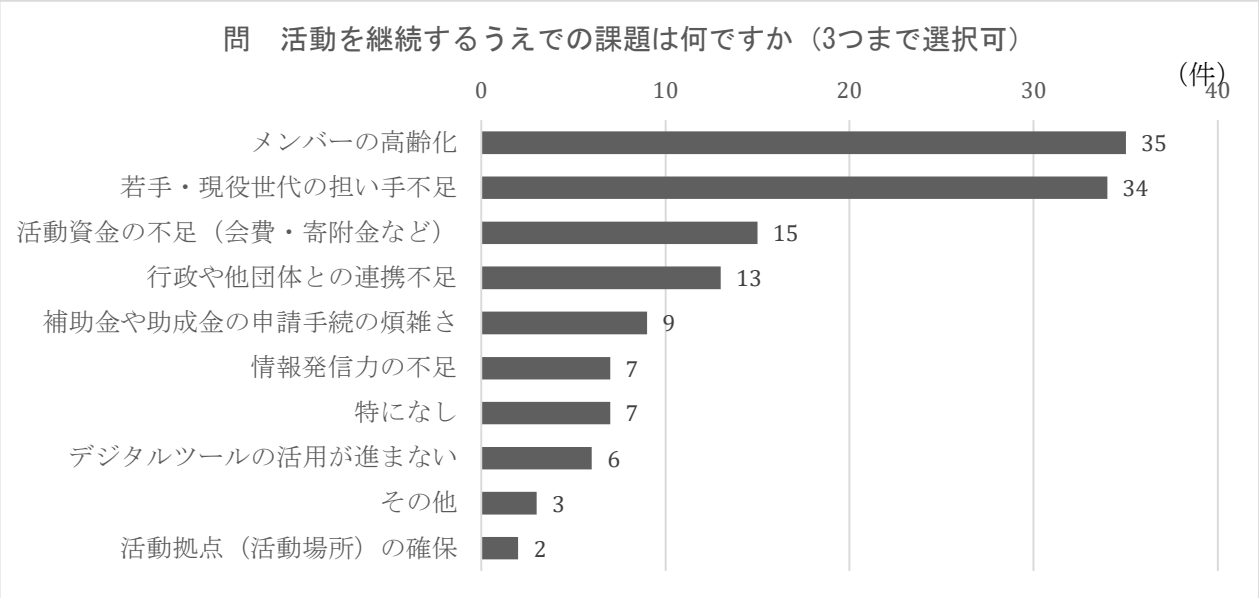
「現在の活動状況」ごとに、「10 年後も同規模で活動できるか」を割合で示したもの。

順調に活動している団体でも「維持できると思うが不安がある」が半数以上を占めており、活動ができている団体にも継続への不安があることがうかがえる。



活動の課題

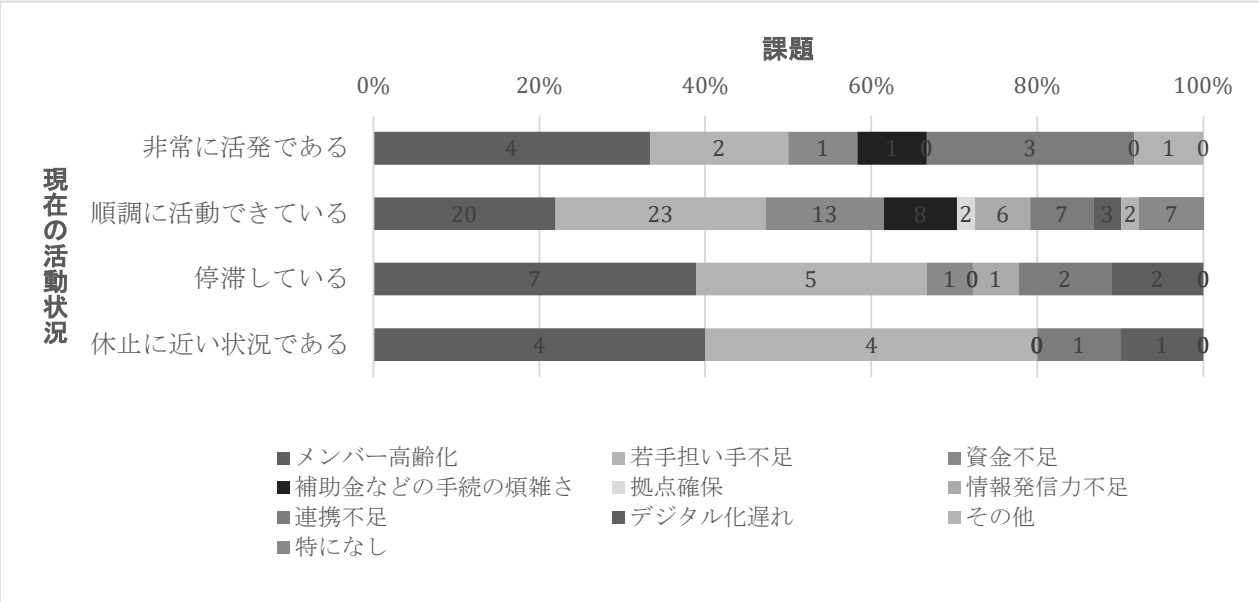
「メンバーの高齢化」と「若手担い手不足」が全体の半数を占めており、人材の確保・育成が地域活動の継続に向けた大きな課題となっている。



＜現在の活動状況別、課題＞

「現在の活動状況」ごとに、「課題の回答状況」を割合で示したもの。

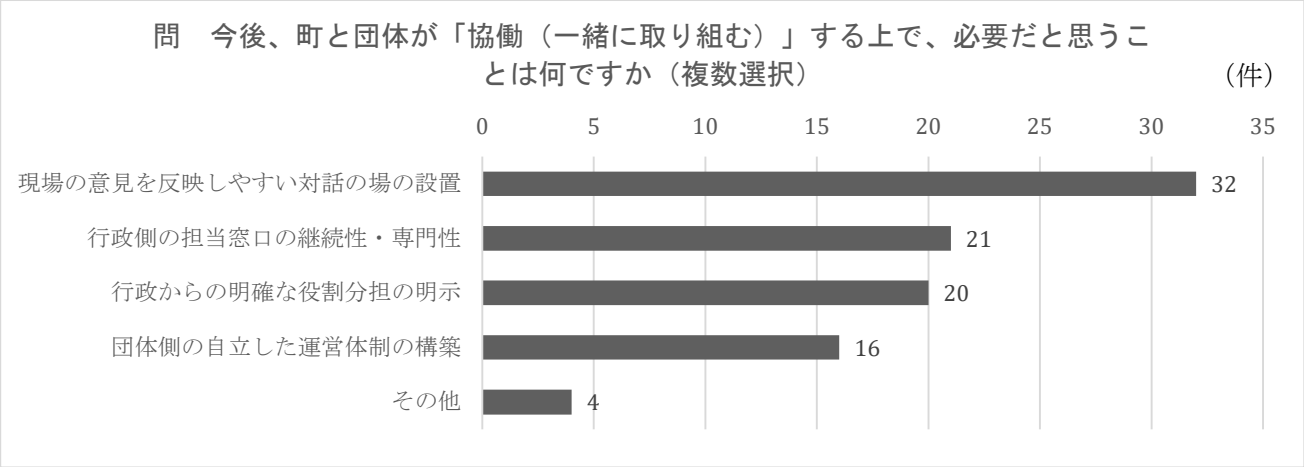
活動状況にかかわらず、「メンバーの高齢化」や「若手担い手不足」の割合が大きい。また、活発、順調に活動している団体においては、担い手不足に加え、「資金不足」や「他団体等との連携不足」も課題となっている。



町への期待

行政との協働で必要なこと

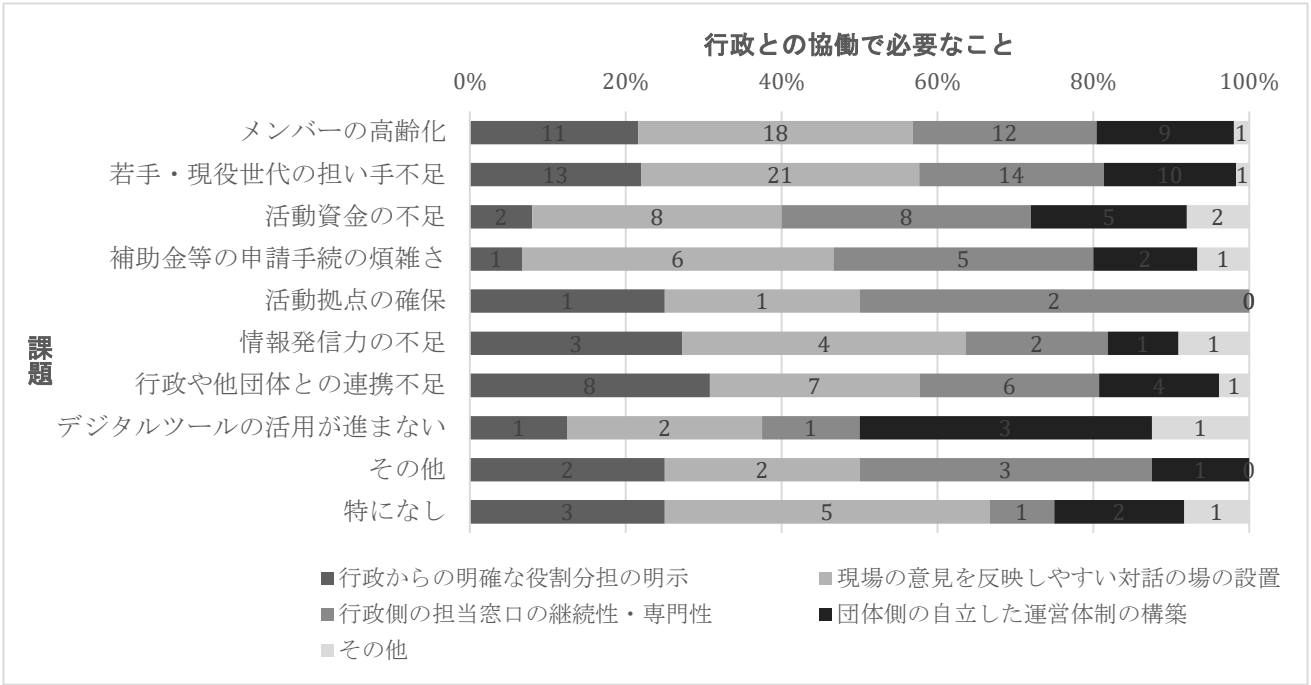
「現場の意見を反映しやすい対話の場の設置」が最も多く、行政と団体が継続的に意見交換できる関係づくりが求められていることがうかがえる。



＜課題別、協働で必要なこと＞

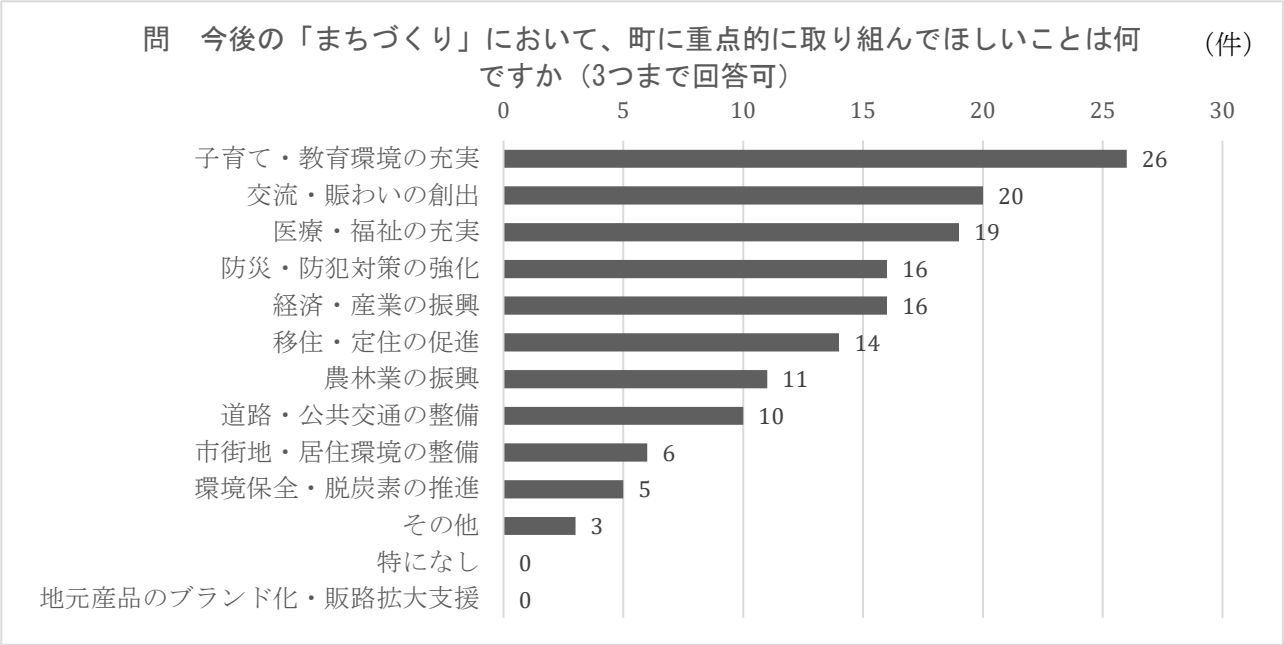
「課題」ごとに、「行政との協働で必要なこと」の回答状況を割合で示したもの。

活動上の課題にかかわらず、「行政との対話の場」「担当窓口の継続性、専門性」を求める傾向がみられる。「行政との連携不足」を課題と答えた団体は「行政からの明確な役割分担の明示」が最も求められていた。



町に重点的に取り組んでほしいこと

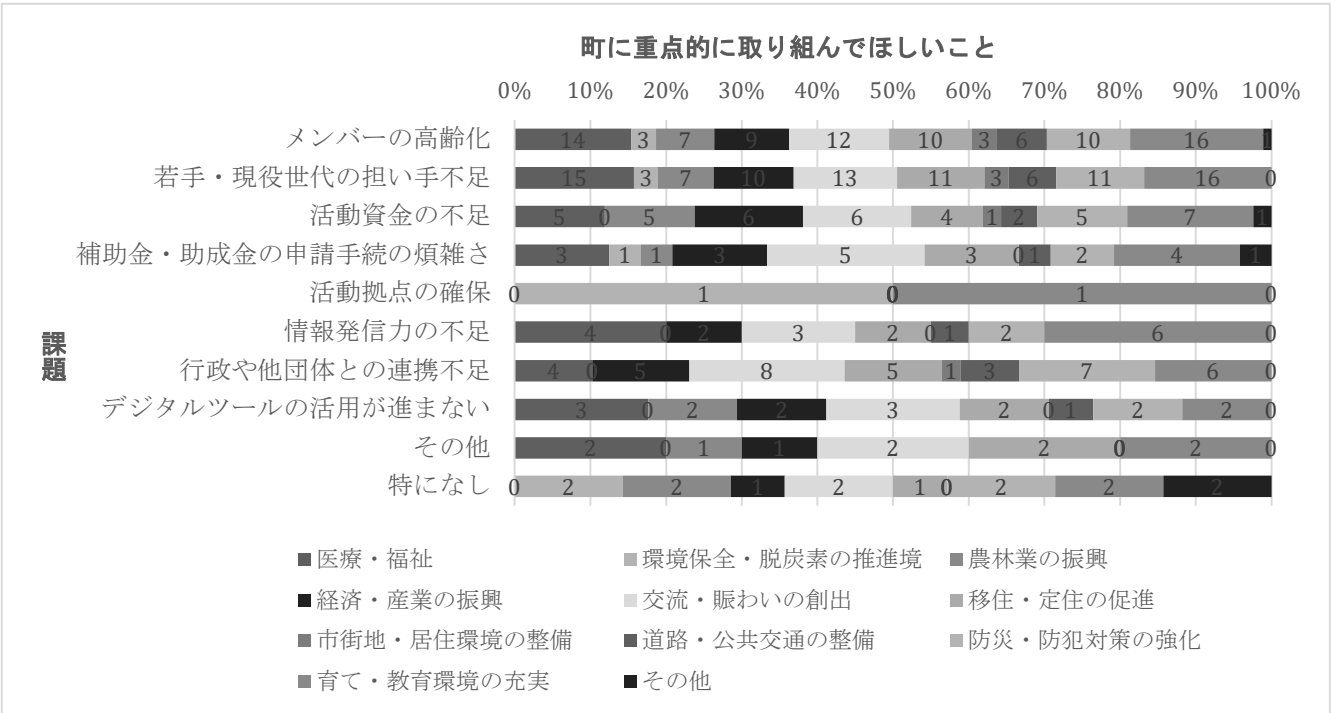
「子育て・教育環境の充実」が最も多く、次いで「交流・賑わいの創出」「医療・福祉の充実」が多かった。子育てや福祉などの暮らしの安心と、地域の賑わいが重視されていることがうかがえる。



＜課題別、町に重点的に取り組んでほしいこと＞

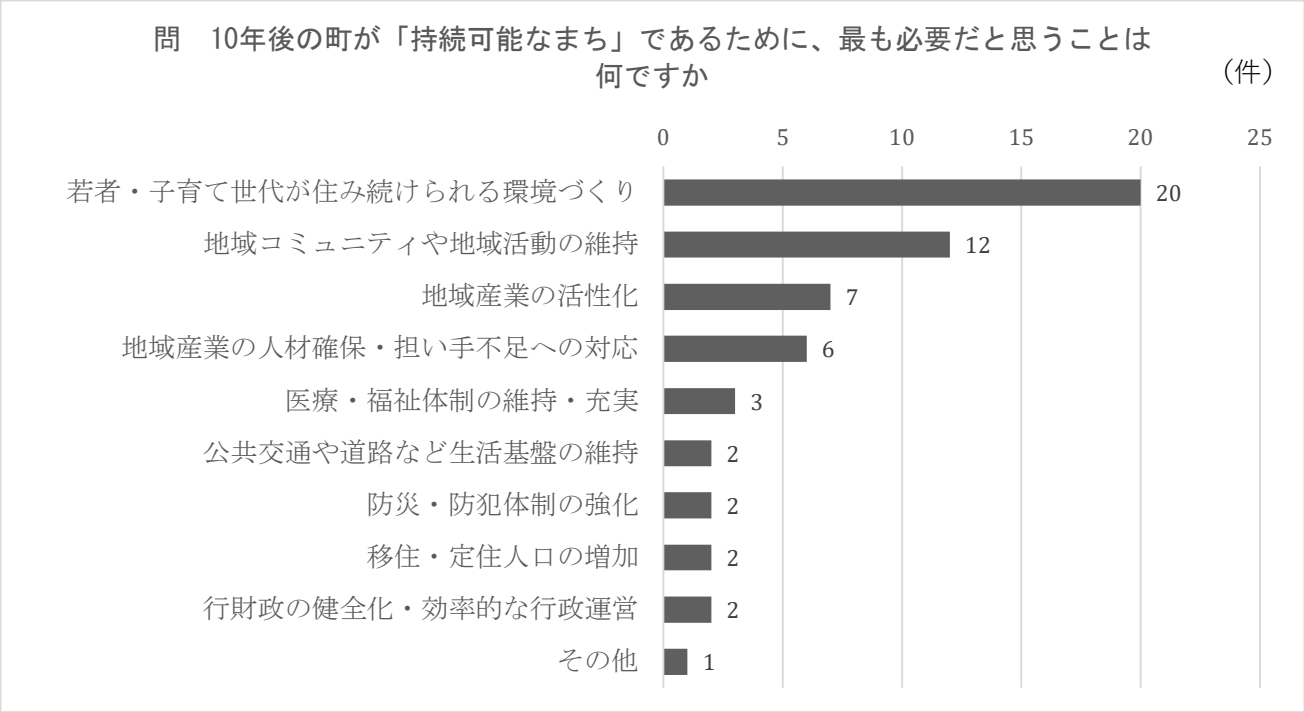
「課題」ごとに、「町に重点的に取り組んでほしいこと」の回答状況を割合で示したもの。

活動継続上の課題による大きな傾向の違いはみられず、「医療・福祉」「交流・賑わいの創出」「防災・防犯」「子育て・教育環境」が比較的高い割合を占めていた。



持続可能な町に向けて必要な取り組み

10 年後の持続可能なまちに必要なこととして、「若者・子育て世代が住み続けられる環境づくり」が最も多く挙げられた。地域活動における担い手不足や高齢化が課題となる中、地域団体は、活動の担い手を確保するためにも、若い世代が住み続け、地域に関わることのできる環境づくりを重視していると考えられる。



自由意見

「問　次期総合計画や、町の行政運営に対して期待すること、改善してほしいことを自由に記述してください」

＜主な意見を抜粋して掲載＞

・行政からの的確なサポートが地域活動や市民活動の活発化に繋がると感じています。
・年齢に関係なく、自分のやりたい事にチャレンジできること、ワクワクすることができる町。今紫波町に人が集まっているのはそういうことができる空気があるからかなと思います。
・教育分野に思い切って投資してほしいです。
・移動手段について、しわまる号を発展させてもっと誰でも使いやすいものにしていってください。
・少子高齢化による地域コミュニティの衰退による地域コミュニティの維持が困難となり、地域の活力が失われています。また、耕作放棄地と空き家の増加、後継者不足により放置された事が、治安防災上のリスクとなっている。自治会、行政区長、地域の交通安全に係る団体（スクールガード、地域の交通安全団体など）コミュニティが崩壊しそうな時期、町も関与して頂き地域コミュニティの再構築を皆で考えていくことが、紫波町が生き残って行く為に必要と考えます。
・スポーツ振興に偏らず、教育施設の拡充を検討してほしい。